

漁海況 長期予報

令和8年8月3日発行

三重県水産研究所

TEL：0599-53-0016

FAX：0599-53-2225

2026年8～12月までの予測

7月29～30日に北海道から鹿児島県までの太平洋側の各都道府県水産研究機関および水産研究・教育機構が海況・漁況に関する情報を持ち寄り、今後の見通しを立てましたので、その概要を紹介します。

【予測対象】海況および熊野灘のマイワシ、ウルメイワシ、さば類、マアジの漁況

海況

黒潮はN型基調で推移するものの、一時的にC型となる見込みです。

熊野灘沿岸の水温は、表層では「高め」基調、下層では「低め」基調で推移するでしょう。

【解説】7月下旬現在、黒潮は潮岬にほぼ接岸し、熊野灘～遠州灘沖の33°N付近を東進し、御蔵島と八丈島の間を通過した後、房総半島に接近しています（N型）。

予測期間中、黒潮の流路はN型基調で推移するものの、一時的にC型となる見込みです。

熊野灘沿岸はN型基調のため、冷水に覆われて低水温傾向になる見込みです。ただし、高い気温の影響や一時的な黒潮からの暖水流入により、表層水温は「高め」基調で推移するでしょう。

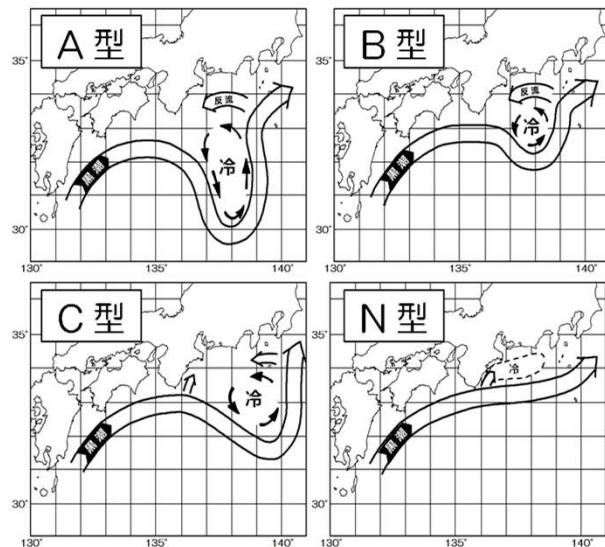


図. 黒潮流路の型

マイワシ

11～17cm（0歳魚）を主体に、来遊量は前年を下回るでしょう。

【解説】2026年3～6月の中型まき網主要4港（贄浦、奈屋浦、錦、紀伊長島）における漁獲量は773トン（前年同期143トン、過去10年平均3,595トン）でした。漁獲は3月にまとまり、主体は15～16cm（被鱗体長）でした。2026年3～6月の大型定置網主要5漁場（片田、阿曾浦、贄浦、早田、梶賀）における漁獲量は7.8トン（前年同期32.2トン、過去10年平均27.1トン）でした。今期の熊野灘における来遊量は、3～6月の定置網での0歳魚の漁況が前年を大幅に下回ったことから、前年を下回ると予測されます。

ウルメイワシ

8～20 cm（0歳魚）を主体に18～23cm（1歳以上）も漁獲され、来遊量は前年を上回るでしょう。

【解説】2025年12月～2026年6月の中型まき網主要4港における漁獲量は579トン（前年同期196トン、過去10年平均1,304トン）でした。漁獲は3月にまとまり、主体は20cm前後と15～16cm（被鱗体長）でした。2026年3～6月の大型定置網主要5漁場における漁獲量は2.3トン（前年同期1.3トン、過去10年平均4.4トン）でした。今期の熊野灘における来遊量は、5～6月の定置網での漁況が前年を大幅に上回ったことから、前年を上回ると見込まれます。

さば類

マサバ、ゴマサバともに、15～25cm（0歳魚）を主体に、30～35cm（1～3歳魚）が漁獲されますが、来遊量は両種とも低水準となるでしょう。

【解説】2025年12月～2026年6月の中型まき網主要4港におけるさば類の漁獲量は407トン（前年同期558トン、過去10年平均15,261トン）と1992年以降の統計史上最低値でした。マサバは1月に24cm（尾叉長）を主体に、ゴマサバは12～2月に23～29cmを主体にややまとまりました。今期の熊野灘における来遊量は、マサバ、ゴマサバとも低水準で推移すると見込まれます。

マアジ

19～25cm（1歳魚）を主体に、19cm以下（0歳魚）、23cm以上（2歳以上）が混じって漁獲され、来遊量は前年並～上回るでしょう。

【解説】2025年12月～2026年6月の中型まき網主要4港における漁獲量は1,029トン（前年同期938トン、過去10年平均451トン）でした。漁獲は1月にまとまり、主体は15cm前後と22cm前後（尾叉長）でした。2026年4～6月の大型定置網主要5漁場における漁獲量は197トン（前年同期61トン、過去10年平均67トン）でした。定置網では3月から新規加入群（6cm前後～）が漁獲されています。今期の熊野灘における来遊量は、前期のまき網、定置網の漁況から前年並～上回ると見込まれます。

※ 次回の漁海況長期予報は、12月下旬頃に2027年1～6月の予報を行う予定です。